

運転期間延長やめ原発ゼロ決断を 中国電力へ申入れ 党県議団松江市議団ら

原則40年、最長60年としてきた原発の運転期間延長を検討する政府方針が明らかになったことを受け、日本共産党島根県議団をはじめ30キロ圏内



申入れする県議団、松江市議団ら

の地方議員は22日、松江市の中国電力島根支社を訪れ、島根原発2号機の運転期間は延長せず、原発ゼロを決断するよう申し入れました。島根2号機は2029年に40年を迎えます。

尾村利成県議は、新型コロナウイルス第6波、第7波を通じ、医療提供体制の逼迫、マンパワー不足が明らかとなり、避難計画の実効性に対する住民不安は根強いとし、「老朽原発を酷使することは許されない。島根原発の稼働は断念し、安全・安心のエネルギーへ転換すべきだ」と迫りました。

大國陽介県議は、出雲、安

来、雲南3市が2号機のブルサーマル議論に加わっていないことにふれ「住民の声を直接聞く説明会の開催を」と求めました。

舟木けんじ市議は鹿島町での要支援者避難訓練の視察を元に複合災害への対策を訴えました。

「避難計画において中国電力社員が県民の避難先である広島岡山から支援に来る計画に触れ、社員の命を守るためにも再エネへの転換を訴えました。応対した地域共生部の森安勝部長は「現時点で運転延長の具体的な計画はなく、政府の議論をしっかり注視していきたい」と説明しました。向田聡・安来市議、上代和美・雲南市議が同席しました。

人権と民主主義まもろう 国民救援会島根県本部が定期大会

11月19日、日本国民救援会島根県本部が第45回定期大会を開催しました。国民救援会

は人権と民主主義、平和を守るとして1928年創立以来、言論の自由、選挙活動の自由をもとめ不当判決事件の被害者支援などを行っています。

近年では再審法改正にむけて各市町村議会に向けて意見書提出を求める請願運動を行っています。

中尾光良会長は開会にあたって日本の死刑制度の異常さと法務大臣辞任に至る死刑軽視発言についてふれ「再審法改

正や死刑廃止に向けていっそう運動を強めよう」と挨拶しました。

三澤欣子事務局長が情勢及び年間の活動について報告、救援事件支援の署名運動、再審法改正を求める全国及び県内の地方議会への請願運動状況、解放運動無名戦士合葬追悼会合葬者の推薦、担い手づくり（仲間増やし）について報告しました。



三澤事務局長の活動報告を熱心に聞く会員の皆さん

まだ使える 閉鎖された公共施設 このまま放置してよいのか

11月23日八束町にある市の遊休施設、旧八束保健福祉総合センター「ちとせ八束」の見学会が行われました。

この施設は、平成28年度公共施設適正化計画により民間事業者による特養ホームへの移行が決まり、改修のために閉鎖されました。

その後事業者が撤退したため5年にわたり閉鎖されていた。閉鎖前は年間2万5千人の利用があり、プールは地域外在住の方からも喜ばれ、また乳幼児の雨の日の遊び場、中学生の自由な学習場所としても活用されていた経過があり、地域住民から再開を望む声が多くあります。

昨年度、八束の明日を考える会（藤井伸士会長）は市の担当課や市長と懇談し、ちとせ八束市議が市議会でのこの問題を提起しました。

問題を取り上げていました。現況を確認したいという地域住民の意向を受け、八束の会が計画、ちとせ八束市議が担当部署である健康福祉部に働きかけ見学会が実現しました。

会の役員をはじめ、様々な事業の経営者や、地域おこしに参加している住民など20名が参加、松江市から岸本和之健康福祉部次長、豊田真也健康係長が立ち合

い説明しました。現在は民間の事業者から問い合わせはあるものの、建物面積が広く管理費や修繕費の面から手が上がらない状況と説明がありました。建物



施設内部を見学する参加者の皆さん

日本共産党 演説会

YouTube配信あり
jcpshimane で検索

12月18日(日) 午前10時～

松江テルサホール (JR松江駅前)



おむら
尾村としなり
島根県議会議員

私たちがお話しします

たむら ともこ

田村智子
参議院議員



全体の耐震性に問題はなく、一部雨漏りがあること、釣り天井の耐震性に問題があると説明がありました。

見学の後の懇談では、「防災用品の倉庫になっているが残念。高齢者の居場所にした」「立派な厨房設備がある。地域のために何とか活かしたい」「せつかくの旧八束町の財産だから町おこしに活用を」「プールのボイラー修理、3千万かかると聞いたが利用者も多かった。地域でもっと話し合いはできないか」など多くの意見が出されました。